



北の台小学校3年生から絵手紙が届く

北の台小学校の3年生は、地域を知ろう・地域の人と語る学習の一環の中で、大上地区社協が協力して7月には同校の教室で「くす玉」作りを、11月には深谷大上ふれあいの家で「絵手紙展」を見学、そして同じ11月には同校体育館で「絵手紙」作りに挑戦し、個性豊かな絵手紙を作りました。

今回、その3年生85名が絵手紙を作り、日頃お世話になっている大上地区社協会員や地域の方々に差し上げて下さいとの事で、大上在住の児童52名の絵手紙が深谷大上ふれあいの家へ届けられました。宛名は「ふれあいの家のみなさんへ」「ちいきのみなさんへ」「地いきにお住まいの方へ」といった表現で、差し出し人は北の台小学校3年の組名と氏名が記されていました。

絵手紙は、個性豊かな果物や野菜の絵と共に「いつもありがとうございます」「がんばってください」「いろいろなことをおしえてくれてありがとう」「ながいきしてね」とか「これからもよろしくお願いします」といった言葉が添えられていました。受け取った大上地区社協の会員や地域の皆さんは、子ども達からの心温まる絵手紙に一様に心を和ませていました。



3年生の児童52名から届いた絵手紙

つるし雛展に北の台小の児童も見学に！

深谷大上ふれあいの家で毎週火曜日に開かれている「火曜喫茶店」（店長は岩月理事）では、月に1～2回企画展を催していますが、1月21日（火）には「布あそびとつるし雛展」を開催しました。

つるし雛展は、講師の浦谷かつ子さん（大上5区在住）の指導のもと、大上地区会員の10名の皆さんが日頃から熱心に作ったつるし雛を展示したもので、干支や野菜、長寿や子どもの誕生を祝うつるし雛が飾られた会場には地域の約100名の皆さんと共に、今年も北の台小学校3年生の85名が授業の一環として先生に引率されて見学に来館された。

そして、同校の西木校長を始め、先生方も見学に来られると共に、6年2組の22名が放課後に先生と一緒に見学に訪れ、春の息吹を感じるつるし雛に見入っていました。また、28日の火曜喫茶店に6年2組の代表6名が担任の先生と来館され、つるし雛を見た感想とお礼を記した寄せ書きをいただきました。



講師の浦谷さんの説明を聞く児童の皆さん

北の台中学工芸部員の作品を展示

大上地区社協が管理運営している“深谷大上ふれあいの家”では、北の台中学の工芸部員の作品を1月8日（火）から14日（火）までの一週間にわたって展示しました。

作品は同校の工芸部員20名が、日頃の部活動において材料の樺で皿などを作り、漆を塗って仕上げたものです。展示最終日の14日は「ふれあいの家新年会」の日でもあり、来館された多くの皆さんから、称賛されていました。



展示された工芸部員の作品